

健康・医療・介護・福祉ニュース

◆ 最新の健康・医療・介護・福祉などに関するニュースを集めて紹介します。

地域医療の架け橋に

奈良医療センター

玉置 伸二

皆さんは「結核」について、ご存じでしょうか？

結核は、昭和20年代まではわが国で、「国民病」「亡国病」として恐れられていました。年間死亡者数も十数万人に及び、死亡原因の第1位になっていました。医療や生活水準の向上により、薬を飲むは完治できる時代になりました。

このため「過去の病気」と思われているかもしれませんが、それは正しくありません。今でも1日に56人の新しい患者が発生し、6人が命を落とされている日本の重大な感染症です。

結核は、結核菌によって主に肺に炎症を起こす病気です。痰(たん)の中に結核菌がいる患者さんが咳(せき)をする時、しぶきとともに結核菌が空気中に飛び散り、それを周りの人が直接吸い込むことによってうつっていきま

忘れてはいけない「結核」について

国立病院機構奈良医療センター 診療部長(内科)・呼吸器疾患センター長

玉置 伸二



玉置 伸二
診療部長(内科) 呼吸器疾患センター長

【略歴】平成2年、奈良県立医科大学卒。同大学内科学第二講座学内講師などを経て、平成23年から現職。日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医、指導医、日本アレルギー学会専門医・指導医、日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医・指導医。

咳や痰続けば受診を

感染が起った後には、全員が結核として発病するわけ

とで診断します。肺気腫(しゆ)など、もともと肺の病気がある場合には、特徴的な画

像を示さずに「肺炎」として治療されていたケースもみられます(表1、表2)。

奈良県では、全国と比較して、減少の速度も鈍化しています。

ではありませんが、比較的早期に発病する「初感染発病」と、結核菌が一旦(いったん)眠りに入って数年から数10年後に発病する「既感染発病」があります。

結核の症状としては、咳・痰・発熱などがありますが、特に高齢者においては特徴的な症状が見られない場合も多くみられます。体のだるさ・寝汗・体重の減少などが初発

症状となることもあります。胸部レントゲンや胸部CTなどをやって結核を疑い、痰の中から結核菌を見つけるこ

とも、特徴となっています。当院は、奈良県で唯一の結核病棟を有する専門施設であり、県内を中心に多くの医療機関から結核患者さんのご紹介を頂いております。入院患者さんでも毎年150人前後受け入れております。

胸部レントゲンや胸部CT

表1 表2

表1 表2

表1 表2

胸部レントゲン写真(表1)や胸部CT(表2)で、典型的な所見を示さない症例も増加している

表1 表2

表1 表2

表1 表2

表1 表2

表1 表2

表1 表2

表1 表2

独立行政法人
国立病院機構奈良医療センター
星田 徹院長
電話0742(45)4591

次回(9月14日)掲載予定